Q: 錯視とはどのような現象を指しますか？
A: 錯視は、対象の物理的性質を正しく、知覚する機能を欠いている現象です。平行な線が近づくことなく、周りの線が違う方向に見えてきます。
Q: どのような誤視があるのですか？
A: 誤視は大きく2つ、近視と遠視の2つがあります。近視者は目の前までの線が見えにくく、遠視者は目元までの線が見えにくい状態です。
Q: 錯視と証拠眼視を比較すると、どのような違いがありますか？
A: 錯視は対象物の形状を正しく認識するのに、証拠眼視はその形状を正しく認識することができます。異なる視野を用いているためです。
Q: 錯視はなぜ起こるのですか？
A: 錯視は視覚情報の不完全や、視覚情報の検出の不完全により起こります。具体的には、視覚情報の検出が不完全であり、視覚情報の検出が不完全であるためです。
Q: 錯視の原因は何ですか？
A: 錯視の原因は視覚情報の検出の不完全や、視覚情報の検出の不完全により起こります。具体的には、視覚情報の検出が不完全であり、視覚情報の検出が不完全であるためです。
Q: 錯視と証拠眼視を比較すると、どのような違いがありますか？
A: 錯視は対象物の形状を正しく認識するのに、証拠眼視はその形状を正しく認識することができます。異なる視野を用いているためです。
Q: 錯視はなぜ起こるのですか？
A: 錯視は視覚情報の不完全や、視覚情報の検出の不完全により起こります。具体的には、視覚情報の検出が不完全であり、視覚情報の検出が不完全であるためです。
Q: 錯視はなぜ起こるのですか？
A: 錯視は視覚情報の不完全や、視覚情報の検出の不完全により起こります。具体的には、視覚情報の検出が不完全であり、視覚情報の検出が不完全であるためです。
Q: 錯視はなぜ起こるのですか？
A: 錯視は視覚情報の不完全や、視覚情報の検出の不完全により起こります。具体的には、視覚情報の検出が不完全であり、視覚情報の検出が不完全であるためです。
線が長くて，線縁が主観的視覚障害（物理的には一致した線に不自然な線の重ね）に似ていることを指摘している。図2では水平の主観的視覚障害が重ねて見える。そのほかにも，視覚障害を示すとしてフルー・マッカイ（2008）が挙げられている。図2では，視覚の見え方が同じ方向に全体が重なって見えます。したがって，フェルナー視覚表現一つを取って見ても，視覚研究が視覚のメカニズムの研究に貢献していることがわかります。また，視覚障害の研究にも貢献されるべき部分が多く残されていることがわかりて驚かれるかと思います。

（文献）
1）今村：「視覚障害－見え方の心理学」，サイエンス社（1964）
2）大沢江・今村：「光学・光学心理学ハンドブック」，講談社（2008）
3）松田浩之：「視覚障害」，講談社（1988）
4）直木：「視覚の心理学」，講談社現代新書（1985）
5）大山正：「視覚心理学への招待—見え方の学問へのアプローチ」，サイエンス社（2008）

（41）367